

第2節 ベンショ塚古墳出土馬具の付錆木片の非破壊樹種同定

第1項 試料と方法

試料はベンショ塚古墳から出土した馬具の鞍金具後輪覆輪内に遺存した付錆木片数点である。非破壊で観察できる落射顕微鏡を用いて、横断面（木口面）、放射断面（柁目面）、接線断面（板目面）の観察を行って、樹種の同定を行った。

試料 ベンショ塚 馬具 付錆木片 920625

第2項 観察と結果

観察と同定の結果を以下に記す。

ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科

横断面（木口面）では、年輪幅が極めて狭く、年輪に大型の道管が配列する環孔材である。放射断面（柁目面）および接線断面（板目面）では、道管の穿孔が単穿孔で、小道管に螺旋肥厚が認められる。放射組織は数列までの多列の平伏細胞で構成され、上下の縁辺部に方形細胞が

認められた。

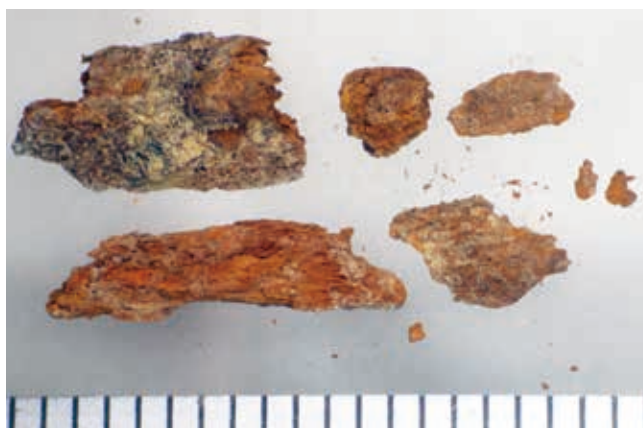
以上の特徴から、ケヤキに同定される。一般的にケヤキは分布範囲が広く、本州、四国、九州に分布し、奈良盆地周辺も同様である。森林の主要な構成要素とはならないが分布する。落葉の高木で通常高さ 20～25m、径 60～70cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 50m、径 3m に達する。材は強靱で従曲性に富み、多様に用いられるが、削り物によく用いられる。

古墳時代においても同様で削り物によく用いられる。古墳から出土した木質の同定は、棺材は多く、刀剣や鏃の木質は行われているが、馬具のものはほとんどない。畿内においては中期の例はないが、後期後葉の藤ノ木古墳の鞍のクマシデ属や複維管束亜属（二葉松）、鎧のヌルデや尻繫飾のコナラ属、牧野古墳の壺鐙のケヤキ？がある。本試料はケヤキであり、即した形に成形し易く、馬具金具に組合せて用いられたと考えられる。

（金原正明・金原美奈子）

参考文献

奈良県立橿原考古学研究所 1993 『斑鳩 藤ノ木古墳 第2・3次調査報告書』
広陵町教育委員会 1987 『史跡牧野古墳』 広陵町文化財調査報告第一冊



馬具 付錆木片 920625 (1目盛1mm)



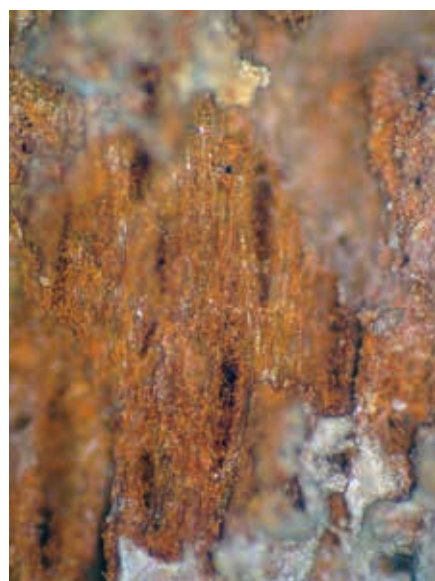
横断面（木口面）

— 0.1mm



放射断面（柁目面）

— 0.1mm



接線断面（板目面）

— 0.1mm

図 52 ベンショ塚古墳出土馬具付錆木片